



ネット活用  
ウェブサイトを使って町の魅力を発信しよう！

町の魅力を一望できるウェブサイトなのね！

かつて南部の中心地として栄えた与那原町。現在は海岸沿いのマリントウン東浜の発展で注目を集



行政サイドとして同サイトとの支援体制を語る、同町広報担当の村松志門さん(左)、同町企画財政課の照屋さん(右)

同サイトのスタッフ伊藤玉緒さんは、「地元にいるからこそできる町の魅力を発信していきたい」と目を輝かせます。町の見慣れた日常を掘り下げて新たな魅力を発見する同サイトの取材姿勢は、「サイトを見た人が、この町の『通』になって、町をもっと楽しんでほしい」という、サイトの名称に込められた想いにつながっています。



情報収集は、町の人たちの協力なくしては始まらない

維持が大切  
町おこしの力になる

情報発信は継続がかなり!なのね。

同サイト内のツイッターに若者から感想が投稿された、県外の人々が同町へ移住する際に利用したなど、「与那原通」には、うれしい反響も少しずつ出てきました。また、サイト運営費のサポーターとして募ったスポンサーの交流会が開催されるなど、同サイトが縁となった、

## 与那原町

地域の日常に光を当てた町の魅力発信ポータルサイトは、活力ある町づくりの新たな動きとして期待を集めています。

める一方で、長い間、南部へ出かける際の通過点として位置づけられていたため、商店街の活気は低迷し、その底上げが町の課題となっております。同町の商工会では、その課題への取り組みとして、さまざまな勉強会を開催していました。

その中の「口コミセミナー」に参加したウェブデザイナーの森江直子さんが、その内容に触発されて、同町の口コミ的なウェブサイトを作りたいと思ったことがきっかけ



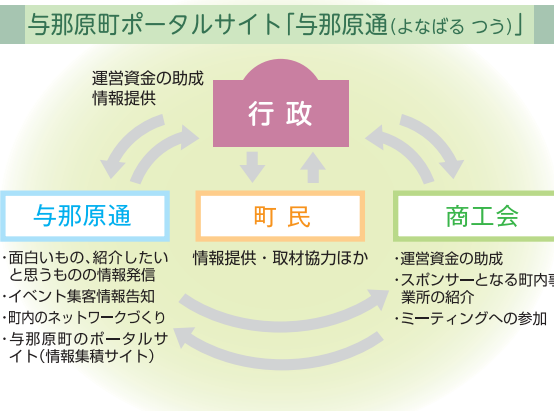
与那原通の誕生について語るスタッフの皆さん。手前から森江さん、伊藤さん、岩屋史子さん、米須清貴さん

地域ネットワークづくりも着実に実を結び始めています。

同商工会の知念千亜希さんは「商店街をはじめとした地域の活性化に役立つサイトにしてほしい」という想いを、同町企画財政課の照屋朝也さんは「行政ではなかなかできない、より地域密着の情報発信を継続してもらいたい。そのた



与那原町役場で行われた同サイトのオープニングセレモニー。同サイトのスタートボタンを押したのは、古堅國雄町長



となり、同町のポータルサイト「与那原通(よなばる つう)」の企画が持ち上がりしました。そして、当時の商工会担当者の尽力の結果、国の「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」を申請して交付された町役場の委託を受けてサイト構築が本格化。平成二十二年七月、情報発信がスタートしました。

「どんな情報を発信したら、与那原町に足を運んでくれるかをテーマにしました」と森江さん。同サイトは、町役場や商工会など、与那原情報を独自に発信してきた既存サイトともリンクするポータルサイトとしての役割も担っています。



サイトの未来に熱い期待を寄せる同町商工会の大城盛治さん、知念さん

めの行政サポートをしっかりとやっていきたい」と、それぞれの期待と抱負を語りました。

県内で一番コンパクトな町のインパクトある情報を提供する「与那原通」。運営維持をめぐってNPO法人化の取り組みも始めました。地域の人たちと行政がゆるやかに連携して取り組む「与那原通」は、同町を楽しく活性化させる媒体として、地域の期待を集めています。



同サイトのスポンサーの皆さんとスタッフの交流会。地域の絆が深まる時間

「通」の視点で  
当たり前に見ている日常に  
この町の魅力がある

与那原町へ行くことになることを基本にしているのね。



「与那原通」のスタッフはプランナーやデザイナー、ライターなど五人。「インタビュアー」気になるお店」「与那原の暮らし」「町歩き」イベント」のカテゴリーを軸に取材・執筆を行っています。取材ネタは、スタッフが町歩きで見つけたもの、地域住民からの口コミ、商工会や町役場広報担当者からの情報提供などさまざまですが、読み手に身近に感じてもらえる表現スタイルで統一しています。

昨年の同町一大イベント「与那原大綱曳」では、住民参加の綱づくりや拝所への成功祈願、練習風景など、大綱曳に至るまでの取材も行い、計十回にわたって発信。写真を多用した日記風の原稿は、取材時の空気感まで伝わる内容です。

## 編集後記

11月8日、沖縄県で震度4の地震があり、これまでに経験したことのない揺れの大きさに、驚かされました。今年は7月にも同程度の地震があり、沖縄も地震と無縁でないということ強く意識させられます。職場の消防訓練などの機会を生かし、日頃から防災意識を高めることが大事だと感じました。(kai)

毎年この時期になると「あれしておけばよかった、これしておけばよかった」と後悔の念ばかりが…。皆さんは今年1年どんな年でしたか?今からでも遅くない!!今年やり残したことを、年内に消化し、新しい気持ちで新年を迎えましょう!!来年も「美ら島沖縄」をよろしくお祈りします。(tama)

平成23年12月1日発行 第35巻12号通巻435号

沖縄県広報誌 **美ら島沖縄**

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020

### アンケート

「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。

▶ パソコンはこちら **美ら島沖縄** **検索**

▶ 携帯電話は、右のQRコードから

